

島根県立
古代出雲歴史博物館
NEWS

2009.JUNE vol. 10



CONTENTS

- 2・3 特別展「どすこい!-出雲と相撲-」特集
- 4・5 学芸員通信/「二つの記念日」イベント企画
- 6・7 古代文化センターだより/出雲への道・出雲からの道/山陰歴史回廊
- 8 企画展スケジュール2009~2010/お知らせ



特別展 「**どすこい!** - 出雲と相撲 -」

島根県出身力士勢揃い!

松平不昧公から齊貴公にかけて、松江藩は多くの勝れた力士を抱え、江戸などの^{かんじん ずもう}勧進相撲で活躍しました。ここでは、特別展に登場する主な島根県出身力士を紹介しましょう。



じんまくきゅうご ろう
陣幕久五郎 (1829-1903)
現東出雲町出身・最高位大関(横綱)
幕内成績87勝5敗17分3預。

島根県出身の唯一の横綱。5敗しかしていないことから「負けず屋」の異名を持つ。慶応3年(1867)、五条家および吉田司家から横綱が免許された。

しゃかがたけくも えもん
釈迦ヶ嶽雲右衛門 (1749-1775)
現安来市出身・最高位大関
幕内成績23勝3敗1分1預。



身長227cm、体重180kgといわれる巨漢力士。看板大関として出発したが、実力も発揮した。等身大の画像や、40cmを超える大きさの草履などを展示する。墓は松江市正覚寺に師匠の^{らいでんためごろう}雷電為五郎と並び建っている。



いなづま さき えもん
稲妻咲右衛門 (1754-1838)
現安来市出身・最高位大関
幕内成績46勝17敗6分5預10無。

釈迦ヶ嶽の弟。看板大関として出場の後、幕下に下がり、その後20年振りに幕内に復帰した努力の人。故郷には稲妻が建てた兄弟碑がある。

あさかぜいしのすけ
朝風石之助
現松江市八束町出身
最高位幕下筆頭。



いなづまらいごろう
稲妻雷五郎の横綱土俵入りでは太刀持ちをつとめ、天保8年(1837)四声山加手右衛門へ改名している。後に、松江の雷電(関)家を継いでいる。八束町入江には同15年に建立された四声山加手右衛門塔がある。



なるたきぶん だゆう
鳴滝文太夫 (1764-1824)
現雲南市木次町出身・最高位小結
幕内成績93勝16敗13分10預9無。

故郷にちなんだ日登、八頭関などの四股名を経て鳴滝に改名。実力はあったが、上位に雷電などがいたため小結どまりであった。鳴滝は雲州出身力士に用いられた。

くもさやまもりのすけ
雲早山森之助 (1813-?)
現松江市美保関町出身・最高位前頭7
幕内成績6勝5敗。



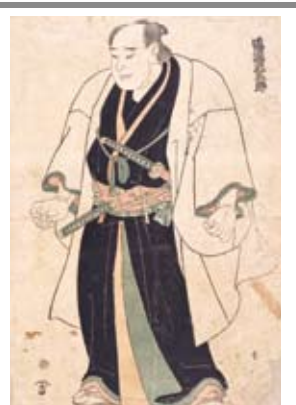
つづみがたき
沖ノ島、立久恵、鼓ヶ滝の名を経て、雲早山の四股名で天保12年(1841)入幕。翌年に頂に改名し、弘化3年(1846)鳴滝を襲名した。故郷には鳴滝塚が建っている。



なるたきぶん えもん
鳴滝文右衛門 (1796-?)
現雲南市大東町出身最高位小結
幕内成績32勝17敗4分1預。

かがみやまゆうぞうかけはしつごろう
鏡山勇蔵、棧シ初五郎の四股名を経て文化6年(1823)、槇ノ嶋(稲妻雷五郎)とともに松江藩お抱えとなった。同10年鳴滝を襲名した。

なるたきちゅうごろう
鳴滝忠五郎 (1782-1818)
現雲南市木次町出身・最高位関脇
幕内成績45勝11敗6分1預。



ごしょうのうら
文化9年(1812)、御所浦の名で入幕、翌年、鳴滝を襲名した。大関の柏戸利助とは3勝3敗1分という強豪力士。大阪相撲では二度、大関となっており、故郷円覚寺の墓石には大関と刻まれている。

200年振りのお国入り - 雷電為右衛門遺品 -

松江藩お抱え力士の代表格、^{らいでんため えもん}雷電為右衛門は、^{とうみ}現長野県東御市出身。長野から雷電の遺品がおよそ200年振りに出雲にやってきます。

◆『諸国相撲控帳』

俗に『雷電日記』と呼ばれる雷電もしくはその関係者が記した日誌。松江藩お抱え力士の本場所中以外の興行などの様子や、どのように松江藩のお抱えになり、また抱えが解かれるのかがよくわかります。例えば、寛政7年(1795)には、松江、今市(出雲)で相撲を行い、宍道湖で船遊びを楽しんでいます。この時、出雲大社と北島国造家で稽古相撲を披露し、千家国造家では化粧まわし姿でお目通りを許されています。

◆雷電奉納袂鐘

雷電生家の菩提寺、養蓮寺(小諸市)に奉納したもので、雷電が戯れに「江戸から袂に入れて運んできた」と述べたことからこの名があります。四本柱、御酒徳利などが配され、下帯は土俵になっています。

◆雷電所用化粧まわし(東御市大石区蔵)

雷電が不昧公から贈られたと伝えられるものです。エンジ色の地に金糸で稲妻模様が刺繍されています。



なぜ、松江藩は多くの優秀な力士を抱えることができたのか

お抱え力士は、^{おふなや}御船屋(現在の松江市東本町4-5丁目)に家を与えられ、引退後も^{かこ}水主として働くことができ、^{ふち}扶持がもらえました。いわば生涯の雇用が確保されていたのです。力士にとってこれは大きな魅力だったことでしょう。



御船屋分見絵図(部分・個人蔵)

御船屋には土俵があり、スカウトされた、また御船屋に育った地元力士はここで研鑽をつんで本場所に出場していきました。このように御船屋はいわば力士養成所で、このようなシステムがあったことが要因の一つと考えられます。

また、お抱え力士のなかには、引退後、松江藩や江戸、大阪の相撲頭取(年寄)となる者がいました。彼らは情報を張り巡らせて、優秀な力士をスカウトしていきました。このようなことも、多くの優秀な力士を抱えた大きな要因でしょう。

【どすこい! 連続講座】

【第1回】7月18日(土) 13:30~15:00

「横綱・稲妻雷五郎と大相撲」

相撲博物館 土屋喜敬

「陣幕久五郎と横綱碑」

相撲博物館 中村史彦

【第2回】7月25日(土) 13:30~15:00

「相撲の歴史」

東京大学大学院教授 新田一郎

【第3回】8月1日(土) 13:30~15:00

「平安王権と相撲節」

島根大学教授 大日方克己

【第4回】8月8日(土) 13:30~15:00

「松江藩と相撲」

古代出雲歴史博物館 岡宏三

【第5回】8月29日(土) 13:30~15:00

「島根の神事相撲」

古代出雲歴史博物館 品川知彦

【連続講座各回共】

◆会場/講義室 ◆定員/100名

◆無料 ◆事前申込が必要です。

◆電話、ファックス、HPイベント参加フォームにて受付。各回共定員になり次第締切とさせていただきます。

相撲講談

寛政年間を舞台にした相撲話。雷電や谷風といった魅力的な力士が登場し、気軽かつ滑稽な内容で、十二分に楽しめます。講談を聞くめったにない機会です。

日時 平成21年8月2日(日)
13:30~15:30

講談師 宝井琴梅

イベント

体験! 力士達を大空に飛ばそう!
相撲錦絵で凧を作ってみよう!

日時 平成21年8月9日(日)
10:00~15:00

参加費 200円

会場 体験工房

当日先着20名(参加申込は不要。)

イブニングシアター

「雷電」(監督:牧野省三・1928年) 「大相撲」(昭和15年初場所映像記録)

日本映画の父、牧野省三の遺作。雷電のあまりの強さに、対戦する力士がいなくなってしまう。そこで、俄仕立ての力士として医者の藪井竹庵(牧野正博)が対戦相手として名乗りをあげるが…。双葉山が登場する昭和15年の映像記録とともに、弁士付きで映画を楽しもう!

日時 平成21年8月9日(日) 17:00/19:00(2回上演)

弁師 片岡一郎

平成21年7月17日[金]-9月23日[水・祝]

開館時間/午前9時~午後6時(入館は閉館30分前まで)

主催/島根県立古代出雲歴史博物館 NHK松江放送局 特別協力/(財)日本相撲協会相撲博物館

後援/松江開府400年祭推進協議会・朝日新聞松江総局・毎日新聞松江支局・産経新聞松江支局・中国新聞社・山陰中央新報社・新日本海新聞社・島根日々新聞社・BSS山陰放送
日本海テレビ・山陰中央テレビ・エフエム山陰・山陰ケーブルビジョン・ひらたCATV株式会社

奈良時代の企画展をひかえて

専門学芸員 鳥谷 芳雄

この秋冬に開催される企画展「出雲国誕生と奈良の都」。タイトルにもあるように、出雲国のかたちが決まり、奈良に都が置かれたころの歴史をあつかった展覧会です。

出雲国がいつ誕生したかはともかく、奈良に都が置かれたのは710年のこと。歴史はどうも苦手という方でも、語呂合わせで「なんと(南都=710)大きな平城京」と記憶している人が多いのでは。もっとも世代によっては「なんと美しい」と暗記したという人もいるかもしれません。

ところで、来年は2010年。710年からするとちょうど1300年になります。いま奈良県を中心にして、この平城遷都1300年を記念した様々なイベントが展開されています。国の特別史跡で世界文化遺産にも登録されている平城宮跡。長らく復元工事が行われてきた大極殿が、いよいよ来春4月ごろには公開されます。そして、着ぐるみの「せんとかん」が大人気で、各地のイベントに引っ張りだことか。



平城宮の正門 朱雀門復元模型 (1/10) 奈良文化財研究所



粉地彩絵八角几



磁鼓



紅牙撥鏝撥



螺細箱

正倉院宝物(模造品) 宮内庁正倉院事務所

では、この企画展は1300年にあやかっただけの展覧会か。いえいえ決してそんなことはありません。私たちが住んでいる島根県、明治時代に枠組みができましたが、出雲・石見・隠岐と、いまでも地域色が顕著です。この端緒と言ってよいのが、この時代に決まった令制国としての国境確定や、山陰道(いまでいう高規格道路)の整備などです。

今回の展覧会では、この時代を特徴づける律令制度下の地方制度の仕組みや、出雲国の成り立ち、さらにはその後への影響などについて考えてみようと思います。もちろん遷都1300年にちなんで、「平城京・正倉院宝物・古代銭貨」という特別コーナーが設けられます。

出雲の国府と奈良の都が比較できたり、普段見ることのできない美しい工芸品が間近でみられる、またとない機会です。是非お楽しみに。そうそう、この時ばかりは島根に「せんとかん」が来てくれないかなあ・

地域に伝わる相撲伝承地 相撲発祥の地とされる出雲だけに、相撲に関する伝承地が多く残されています。

- ◆野見野(飯南町上赤名)
『出雲国風土記』に登場する地名。上赤名呑谷周辺に比定されています。野見宿禰はこの地を本貫とする一族とする説があります。
- ◆野見宿禰墓(松江市宍道町上来待、菅原天満宮)
社伝によれば、菅原道真の父、是善が出雲国庁に在任の時、祖先の野見宿禰の墓を参拝したが、この時、この地で女性を見初め、道真が生まれたといいます。『播磨国風土記』に記す宿禰の墓から分骨したものと伝えられています。
- ◆羽飛神社(松江市鹿島町佐陀宮内)
佐太神社の旧道家邸内にあり、その祖、羽飛を祀ります。羽飛は、野見宿禰と當麻蹴速の対戦の行司をつとめたとされ、行司の祖とされています。出雲は相撲のみでなく行司発祥の地でもあったのでしょうか。



羽飛神社



野見宿禰墓

「銀の道」「青銅の道」…。

専門学芸員 守岡利栄

古代出雲歴史博物館には展示品にまつわる記念すべき日がたくさんあります。加茂岩倉銅鐸が発見された日、荒神谷で銅剣が発見された日、石見銀山遺跡が世界遺産に登録されることが決まった日などなど……。私は、古代出雲歴史博物館には、展示品の数だけおもしろエピソードを満載した「記念日」がある！と感じています。そこで、展示品を「記念日」という切り口でご紹介する「古代出雲歴博〇〇記念日」が今年の4月からスタートしています。

例えば、石見銀山遺跡の世界遺産登録が決まった日の7月2日「銀の記念日」には、石見銀山遺跡現地施設と、三瓶自然館サヒメル、当館を「銀」をテーマに結ぶさまざまなイベントや展示、スタンプラリーを7月2日とこの前後約1ヶ月間に開催します。荒神谷遺跡で銅剣が発見された7月12日の「銅剣発見記念日」は、銅剣発見から25周年目の節目をむかえ、多くの催しを行う荒神谷現地と出土品を展示する当館とをむすぶガイド付きのバスを運行します。さらに加茂岩倉遺跡で銅鐸が発見された10月14日「銅鐸記念日」までの間、「出雲の至宝めぐり ブロンズ(青銅)スタンプラリー」を開催するなど、「記念日」がとりもつ期間限定のスペシャルイベントがもりだくさんに予定されています。

今後もこうした「記念日」ごとに、古代出雲歴博はもちろん、出土地や展示品ゆかりの地の魅力をいっぱいお伝えできるといいなあ、いろいろな場所を結んで。一島根ならではの、とっておきの記念日企画！

LINKAGE

2才です。-「銀の記念日」
石見銀山世界遺産登録記念日関連行事

「銅剣記念日」-25才です。
荒神谷銅剣出土25周年記念行事

「貧乏神」

古代文化センター 主任研究員 岡 宏三

俗に、我が国には八百万の神々がおわしますとか申します。神様も千差万別、トイレにさえ「^{かわや}廁の神」が鎮座していらっしゃいます。

神々のなかでも、とりわけ昨年の暮れからご活躍なのは「^{びんぼうがみ}貧乏神」。この神様、いつ頃からこの世に登場されたのでしょうか。13世紀後半の『沙石集』巻七に収載されている「^{ひんぼう}貧窮ヲ追タル事」という説話には、大晦日に「今は貧窮殿、出おわせ」といいながら桃の枝で家中を追い打たせたところ、「^{おとぎぞうし}やせがれたる法師」が「年来お仕えてきたのに、追い出されたしまった」と泣いている夢を見た、という話があります。

「貧乏神」という名前が現れるのは、17世紀前半、江戸前期の御伽草子「^{うめづのちやうじや}梅津の長者」あたり。この物語によれば、^{うらちわ}貧乏神の頭は禿(髪を結わず、ボウボウに伸ばしほうだい)で、柿色の帷子を着、手には柿うちわ(柿渋を塗った団扇)を手にする「^{わつば(童)}わつば(童。子供、未成人)」の姿で描かれています。意外や意外、やせた初老の姿でなく、身近にいそうな若者の風貌。陽気でいたずら好きな感じがしませんか。物語では、主人公の左近 ^{まごんのしやう}丞夫婦の正直ぶりと慈悲深さに感じたエビス様たち福神によって追い出されてしまいます。

「梅津の長者」は梅津の里(京都市右京区)が舞台。京都の町では、ことに平安の昔から中世にかけて、口さがなく、しばしば騒ぎを起こしてお上に睨まれていた若者たちを「^{きやうわらんべ}京童」と呼んでいました。貧乏神のモデルは、あるいは彼らなのかもしれません。

現在古代文化センターでは、古代から現代にいたる我が国の神のすがた・かたちのイメージの変遷をたどることにより、神に対する日本人のこころを探る研究を進めています。その成果は平成22年に企画展としてご紹介します。



「梅津の長者」(当館蔵)

[出雲への道・出雲からの道]

テーマ研究

「古代出雲の多面的交流の研究」

峠道を進む怪しげな集団！彼らは一体何者なのか！？私たち古代文化センターの研究員達です。それは、鳥取県と岡山県の県境、^{ちす かいどう}智頭街道の志戸坂峠でのスナップ。何のために歩いているかって？かつて山陽道と山陰道とを結ぶ重要なルートだったから。

11世紀末、白河法皇が院政をされていた頃、^{たいらのときりのり}平時範という貴族がいました。時範は、当時の政府である太政官の実務官僚でしたが、^{しやうとく}承徳2(1098)年に因幡守に任命され、翌年、現地に赴任します。その際に、時範がたどったルートは、彼自身が書き残した『^{じほんき}時範記』という日記からわかります。それによれば、平安京から^{せつつのくに}摂津国(大阪府)、^{はり}播磨国(兵庫県)、^{みまさかのくに}美作国(岡山県)を経由して^{いなほのくに}因幡国(鳥取県)に入ったのです。志戸坂峠は『時範記』では「^{しとのみさか}鹿迹御坂」と書かれ、^{こくしゆ}都から^{ざいちやうかんじん}因幡国へ赴任した国守(受領)はここで^{すりやう}因幡国の在庁官人と呼ばれた現地採用の役人たちの出迎えを受けたと書かれています。この平時範の因幡国への赴任のルートでは、山陰道をとらず、山陽道を西下しています。今でも鳥取市内から京阪神へは、智頭急行が便利ですよ。



出雲から都へ向かう場合、そのルートは一つに限定できません。では、そのような多様なルートに沿って、どのようなモノや情報が行き来したのでしょうか。そろそろ、企画展を意識しつつモノの移動について考えることが必要となってきました。

(古代文化センター専門研究員 森田 喜久男)

「さんいんさんぽ」

～因幡万葉歴史館/鳥取市～

今から1250年前の天平宝字3年(759)年正月元日、因幡国守・大伴家持おおとものやかもちが因幡国庁において国や郡の官吏を集め、新年の賀会を開きました。その際家持が詠んだ新年を寿ぐ歌ことばが万葉集の最後の歌となっています。当館は万葉集や大伴家持、そして因幡の歴史・文化を紹介する目的で平成6年に開館いたしました。鳥取市国府町には四隅突出型墳丘墓の糸谷1号墳、彩色壁画と基壇を持つ変形八角形墳の梶山古墳、日本で類例のない形状をもつ岡益おかます いしどうの石堂、全国で十数例しか発見されていない墓誌の刻まれた骨蔵器などがみついています。これらの



因幡万葉歴史館庭園



因幡万葉歴史館外観

の古代の歴史と万葉集が詠まれた飛鳥・奈良時代の文化、そして大伴家持について分かりやすく紹介しています。万葉集に詠まれた植物50種をはじめとした多数の植物が心を和ませる庭園「万葉と神話の庭」、高さ30mの展望台もあります。また、年間を通じて企画展や講座、イベントなど、様々な行事もおこなっています。

特に今年度は、万葉集最後の歌が詠まれてから1250年となることを慶賀して、10月17日(土)・18日(日)の両日にわたって「全国万葉フェスティバルin鳥取」が開催されます。シンポジウムや万葉食体験、古代の寺院で催された伎楽ぎがくの上演、そして恒例となっている「万葉集朗唱の会」など、盛り

りだくさんの内容となっています。

展示については、フェスティバルにあわせて10月初旬から12月初旬まで特別展を開催します。万葉集が詠まれた時代は大陸より様々な文物がもたらされ、色鮮やかな文化が開花しました。またその一方で様々な政変がおき、暦の導入や律令法に基づく国家の形成など、その後の日本の行方を決めるような大きな変革もなされました。この特別展ではそれらに関する資料を通じて、万葉歌がどのような時代の中で詠まれたのか、また万葉集がその後の人々にどれほど大きな影響を与えたのか、等について紹介する予定です。

夏から秋にかけては、財団法人鳥取市文化財団が管理する3施設(因幡万葉歴史館、鳥取市歴史博物館、あおや郷土館)合同の展覧会「鳥取市合併5周年記念 因幡・鳥取の文化財」(仮称)が開催されます。因幡国に縁のある貴重な資料を県内外から集めて展示することで、因幡地方の歴史と文化の価値を再考する機会となる展示です。

今後さらに魅力のある施設づくりを目指してまいりますので、鳥取市へお越しの際は、ぜひ当館にお立ち寄りください!

因幡万葉歴史館

〒680-0146 鳥取県鳥取市国府町町屋726

TEL 0857-26-1780 FAX 0857-26-1781 info-center@tbz.or.jp



因幡万葉歴史館展示室内

おすすめします。『博物館を楽しむ、とっておきパスポート』



- ①いつでも(四季折々)・どれでも(企画展・特別展・特集展など)・なんどでも、博物館を楽しめます。この通行手形で、あなたも「博物館通」「古代出雲の案内人」になれます。
- ②提携しています県内外の博物館・美術館の優待が受けられます。
- ③ブロンズ会員の方は、ショップ・カフェの割引など、うれしい「だんだんサービス」が受けられます。

※パスポート優待提携ミュージアム施設

県内：和鋼博物館・島根県立美術館・宍道菟古館・宍道湖自然館ゴビウス・しまね花の郷・荒神谷博物館・三瓶自然館サヒメル・小豆原埋没林公園・仁摩サントミュージアム・石正美術館・雪舟の郷記念館・萬福寺雪舟庭園・医光寺雪舟庭園・島根県立石見美術館・益田市立歴史民俗資料館・足立美術館
県外：大原美術館(倉敷)、ひろしま美術館(広島市)、サントリー美術館(東京都)、広島県立美術館(広島市)、広島市現代美術館(広島市)、尾道市立美術館・サントリーミュージアム(大阪市)、国立民族学博物館(吹田市)、とっとり花回廊

パスポートブロンズ会員 年会費

一般……2,000円
大学生……1,500円
小・中・高生……1,000円

パスポート会員 年会費

一般……1,500円
大学生……1,000円
小・中・高生……500円



どまゐ

特別展
出雲と相模

7月17日(金)
～9月23日(水・祝)

企画展

出雲に「律」がやってきた!

出雲国誕生と奈良の都

2009年
10月9日[金]～12月13日[日]

特集展

『大社の吉兆幡』(仮)

2009年12月22日[火]～2010年1月17日[日]

島根 神楽 展(仮)

2010年2月5日[金]～4月4日[日]



出雲大社 「遷宮」写真展

～「昭和の遷宮」「平成の遷宮」～

※昨年4月の遷座祭の写真も中央ロビーで展示しています。

夏休みイベントだより **しまね家庭の日特別企画** アテンドといっしょに博物館さんぽ

家族でまるごと博物館 7月19日(日)・8月16日(日)

(毎月第3日曜日) 高校生以下の観覧料無料

博物館で学ぼう!

夏休み体験楽まつり 7月26日(日) 10:00～16:00

- なつやすみ自由研究応援プロジェクト ■はくぶつかん探検隊 ■ふるさと発見!なんでも相談
- 古代出雲体験楽 ■銅剣づくり体験 ■銀ねんどアクセサリーを作ってみよう

博物館で遊ぼう!

夏休み体験楽まつりII 8月23日(日) 10:00～16:00

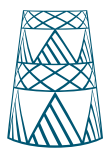
- 勾玉づくり体験や藍染め体験など、博物館で夏の思い出づくり!

夏休み☆しまね楽キャラクタークイズラリー 7月18日(土)～8月31日(月)

れきはく七夕まつり / 古代出雲の音楽会 8月2日(日) (予定)

※詳しくは、当館ホームページをご覧ください。電話でお問い合わせください。

発行/平成21年6月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL: <http://www.izm.ed.jp> E-mail: contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00～18:00



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん